



南町小だより

練馬区立南町小学校

令和5年 4月28日

校長 星 美 登 里

つよく かしこく あたたかく
～ ありがとうございます とどけます ～



オリエンテーションの後、
熱心に本を読んでいた。

「読書の大切さ」を改めて考える ～「こどもの読書週間」が始まりました～

校長 星 美登里

4月からの新しい出会いの中、子どもたちは生き生きと活動しています。学校図書館（図書室）では、学校図書館支援員の石田先生のご支援による図書室のオリエンテーションが始まり

ました。石田先生には、図書室の環境も整えていただいています。

4月23日は、「子ども読書の日」です。平成12年（2000年）の「子ども読書年」の流れを受けて、平成13年（2001年）12月には「子どもの読書活動推進法」が公布・施行され、国と自治体には子どもの読書推進に関する施策の策定・実施の責務を有することが明記されました。その「子どもの読書活動推進法」により、4月23日が「子ども読書の日」と定められました。「こどもの読書週間」自体は、1959年（昭和34年）に、子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとの願いから始まったそうです。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間（5月1日～14日）でしたが、子どもの読書への関心の高まりを受けて、「子ども読書年」の2000年より現在の4月23日から5月12日に期間を延長しました。合わせてこの時期は、子どもにとっての読書の大切さについて改めて考える機会でもあります。

読書が子どもたちの豊かな成長に欠かせないものであることは、今も昔も変わりません。子どもにとって読書はなぜ大切なのでしょう。私は、次の3点が特に大切であると考えています。

- ・新しい知識が増えること。
- ・語彙力や読解力が付くこと。
- ・人の気持ちを想像する力が付くこと。

「語彙力や読解力が付くこと」は、自分の思いや考えを深めたり、相手に伝える表現力を高めたりすることに大きく関与します。また、「人の気持ちを想像する力」は、この時代にぜひ身に付けてほしいことです。とりわけ、小説は読み進める中で「もし自分がこの人だったら…」と様々な立場の人の気持ちを想像するという体験ができます。実際の生活で、困っている人や辛い状況にある人、自分とは状況が違う人の気持ちに寄り添えるようになることは「共に生きること」につながるのです。他にも読書は、「集中力」「コミュニケーション能力」「言語能力」などの向上も期待できます。

「読書教育の充実」は、本校が今年度、全校での重点取組の一つとしたものです。今年度は、読書記録を付け、これも意欲付けに活用していきます。図書室のオリエンテーションを経て本を興味深そうに手にしていた子どもたちが、これからすすんで本に向かう姿を楽しみにしています。

もうすぐ、多くの子どもたちが楽しみにしているゴールデンウィークが始まります。ご家庭でも本を開いてみる「読書タイム」や「読み聞かせ」などを短時間でも取り入れていただけますよう、よろしくごお願い申し上げます。